

Japan

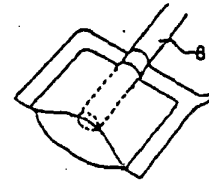
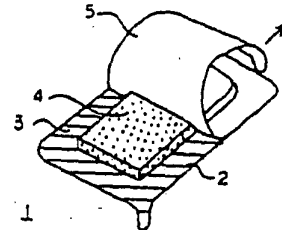
4-352664

## (54) WATER CONTAINING PACK FOR PLANT

(11) 4-352664 (A) (43) 7.12.1992 (19) JP  
 (21) Appl. No. 3-127206 (22) 30.5.1991  
 (71) KANZAKI PAPER MFG CO LTD (72) MASATOSHI ANDO(1)  
 (51) Int. Cl.<sup>4</sup> B65D81/22, A01G5/06//B65D85/50

**PURPOSE:** To keep plants such as natural flowers in freshness for a long time by a method wherein an adhesive layer is provided at a peripheral part of one side of a water-proof sheet, and a water retaining layer made of a water retaining material which contains water or nourishment containing water is arranged at the other part than the peripheral part of the same side of the water-proof sheet.

**CONSTITUTION:** An adhesive layer 3 is provided on one side of a water-proof sheet 2, a water retaining layer 4 retaining water or nourishment containing water and a protection sheet 5 are provided on the adhesive layer 3, and peripheral parts are joined with an adhesive to form a water containing pack for plant 1. This water containing pack for plant can be set in a manner that the protection sheet 5 is peeled off, a stem tip of a natural flower is placed almost on a half of the water retaining layer 4, the other half of the layer 4 is bent on the former half and the peripheral part is pressed to adhere the adhesive layers 3 to each other. Thus, as the peripheral parts are attached tight to each other through the adhesive, any problem such as water leakage does not occur in boxing before use. Further, a setting work is easily made only by peeling off the protection sheet and sandwiching the stem tip of a plant. In addition, after setting, any problem such as the water leakage never occurs.



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開 号

特開平4-352664

(43)公開日 平成4年(1992)12月7日

(51)Int.Cl. <sup>a</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 81/22		7191-3E		
A 0 1 G 5/06		8502-2B		
/ B 6 5 D 85/50		G 8921-3E		

審査請求 未請求 請求項の数2(全4頁)

(21)出願番号 特願平3-127206

(22)出願日 平成3年(1991)5月30日

(71)出願人 000192682

神崎製紙株式会社

東京都中央区銀座4丁目9番8号

(72)発明者 安藤 雅敏

兵庫県尼崎市常光寺4丁目3番1号 神崎

製紙株式会社神崎工場内

(72)発明者 望月 寛峰

兵庫県尼崎市常光寺4丁目3番1号 神崎

製紙株式会社神崎工場内

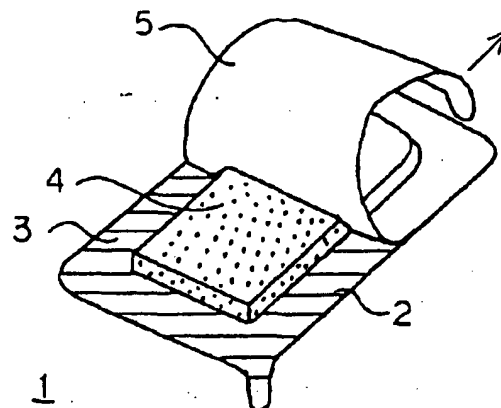
(74)代理人 弁理士 蓮見 勝

(54)【発明の名称】 植物用含水パック

(57)【要約】

【目的】 生花等の植物を新鮮な状態で長期間保持することのできる含水パックを提供する。

【構成】 防水性シートの片面の少なくとも周縁部に粘着剤層を設け、且つ同一面の少なくとも周縁部を除いた部分に、保水性材料に水又は養分等を含んだ水を含有する保水層を配設し、更に粘着剤層及び保水層を防水性の保護シートで保護したことを特徴とする植物用含水パックである。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 防水性シートの片面の少なくとも周縁部に粘着剤層を設け、且つ同一面の少なくとも周縁部を除いた部分に、保水性材料に水又は養分等を含んだ水を含有する保水層を配設し、更に粘着剤層及び保水層を防水性の保護シートで保護したことを特徴とする植物用含水バック。

【請求項2】 保護シートが、剥離剤層を有する請求項1記載の植物用含水バック。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、生花等の植物を新鮮な状態で長期間保持することのできる含水バックに関するものである。更に詳しくは、生花を生産農園から市場への輸送、祝花用、病床の見舞用として持ち歩く携帯用等の場合に、いかなる持ち方をしても生花の切口周辺の熱を遮断して水分を充分に与え、更に水の漏洩を来たすことなく水分を長期間保有し、生花等を新鮮な状態に保持することのできる植物用含水バックに関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来、植物を遠隔地に輸送する際に生鮮状態を保持すべく使用されている保水手段としては、例えばラン等の高級生花の場合には、試験管形のプラスチック容器と、中心に挿入口を開穿孔したゴム栓とにてなる保水容器を用い、プラスチック容器に水を入れてゴム栓を嵌着させておき、挿入口に生花をさして保持する方法がとられている。

【0003】また、通常の生花の場合には、ティッシュペーパーの如き吸水可能な紙を水に濡らして、その紙を茎部に巻付け、更にその上にアルミ箔を巻付けて包装し保水するものである。更に、一部ではティッシュペーパーの代わりに綿を巻付け水に浸して保水することも行われている。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】ところが、前者の場合には、ラン等の高級生花の切口が太い場合は、本数をまとめることができず持ち歩きに困難を来たす問題点があり、何よりも、1個当たりの単価が高いため、高価なものになってしまう問題点があった。後者の場合は、包装に時間がかかること、茎部が太くてもまとめられるが、一番必要な切口部の保水量が少なくその割合を果たしていない場合が多く非能率的で人件費が嵩み、高価な包装となる問題点があった。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】本発明者等は、このような問題点に鑑み、鋭意研究の結果、水や養分を含んだ水を含有するスポンジの如き保水性材料を粘着剤を有する防水性シートと組み合わせ、バック状にすることにより、通常の取扱も容易であり、且つ、簡単な作業で、い

かなる持ち方をしても生花等の切口周辺の熱を遮断して水分を充分に与え水の漏洩を来たすことなく水分を長期間保有し、生花等の新鮮な状態を保持することのできる植物用含水バックを見出したのである。

【0006】本発明は、防水性シートの片面の少なくとも周縁部に粘着剤層を設け、且つ同一面の少なくとも周縁部を除いた部分に、保水性材料に水又は養分等を含んだ水を含有する保水層を配設し、更に粘着剤層及び保水層を防水性の保護シートで保護したことを特徴とする植物用含水バックである。

## 【0007】

【作用】本発明の植物用含水バックを構成する防水性シートとしては、プラスチックフィルム、アルミ箔等の金属箔の他、紙等の少なくとも片面にプラスチックフィルムや金属箔を接合するなどして防水化したシート等も使用できる。勿論、印刷等を施していてもよい。

【0008】粘着剤層は、防水性シートの片面（防水面）に少なくとも周縁部に設けるものである。粘着剤としては、一般に知られているゴム系、アクリル系、ビニルエーテル系等の各種粘着剤が使用できる。

【0009】保水層に用いる保水性材料は、水又は養分を混入させた水を充分に保水できるものであれば特に限定されるものではなく、例えばスポンジや不織布などが使用できる。また、使用の際に、茎や切り口等との密着性が高いクッション性の高いものを用いるのが好ましい。該保水性材料層は前述の防水性シートの周縁部を除いた位置に接合する。接合は、粘着剤層を介して接合するとよいが、加熱接合等の方法を用いてもよい。

【0010】保護シートは、前述の防水性シートが使用できるが、使用の際の剥離がスムーズに行えるようにシリコーン樹脂、弗素樹脂等の剥離剤層を設けたものを用いると好ましい。

## 【0011】

【実施例】以下、図面を参照してこの発明の一実施例を具体的に説明する。図1は、本発明の植物用含水バックである。図2は、図1の構成を説明するための図で、防水性シート2の一方の面に粘着剤層3があり、その上に水又は養分を含有する水を保持した保水層4、保護シート5よりなり、周縁部が粘着剤により接合されている植物用含水バック1である。また、図3は図1のA-A線による断面を説明するための図である。

【0012】この植物用含水バックは、例えば、保護シートを剥がし、保水層4上のほぼ半分の一に生花の茎先端部を置き（図4）、もう半分に折り曲げ、周縁部を押圧して粘着剤同士接着させることにより、装着することができ（図5）。図6～図7は、複数の生花を装着する場合を説明する図である。この場合、図8のように、巻いて持ち運びすることができる。また、図9～図10のような複数の生花を装することもできる。更に、図11のような形状の含水バックにすると、多くの

保水層を内封する事が可能である。

【0013】

【発明の効果】この発明に係る植物用含水パックは、①周縁部が粘剤により密着しているので、使用前の取扱の際に水が洩れる等の問題なく、箱詰めすることもできる。②保護シートを剥がして茎先端部を挟み込むだけなので、極めて効率よく作業できる。水や溶液を浸込ませる必要がない。③植物に装着後も、粘着剤層により周縁部が密着されているので、水が洩れる等の問題がない。④複数本の植物に使用することもできる。等の利点を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、本発明の植物用含水パックの一例である。

【図2】図2は、図1の植物用含水パックの説明図である。

【図3】図3は、図1のA-A線における断面図である。

【図4】図4は、本発明の植物用含水パックの使用方法を説明する図である。

【図5】図5は、生花に装着した状態を説明する図である。

【図6】図6は、複数本数の生花に使用する場合の使用方法を説明する図である。

【図7】図7は、複数本数の生花に装着した状態を説明する図である。

【図8】図8は、図7のシートを持ち運ぶ時の状態を示す図である。

【図9】図9も、複数本数の生花に装着した状態を説明する図である。

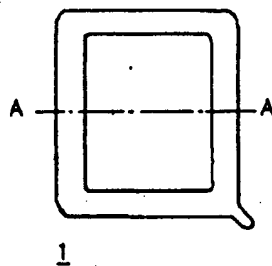
【図10】図10は、図9のB-B線における断面図である。

【図11】図11は、保水層を大きくした場合の植物用含水パックの断面説明図である。

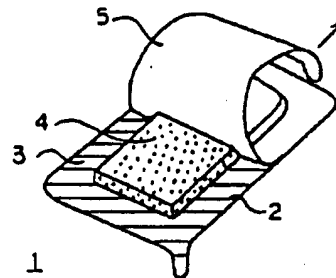
【符号の説明】

- 1：植物用含水パック
- 2：防水性シート
- 3：粘着剤層
- 4：保水層
- 5：保護シート
- 6：防水性シート
- 7：剥離剤層
- 8：茎

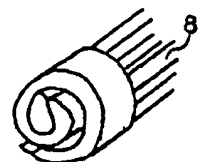
【図1】



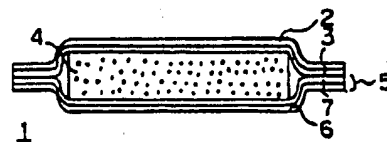
【図2】



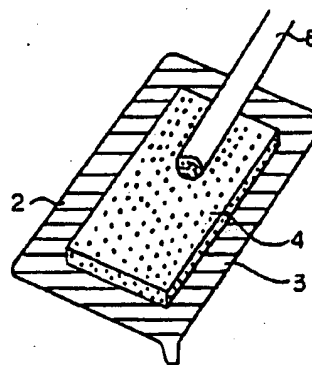
【図8】



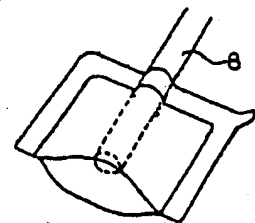
【図3】



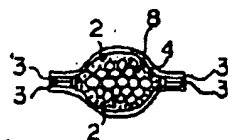
【図4】



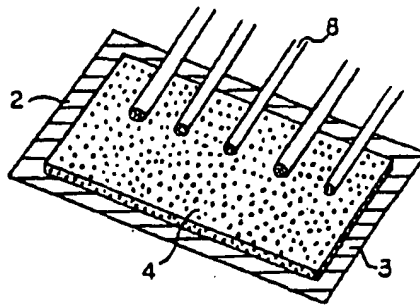
【図5】



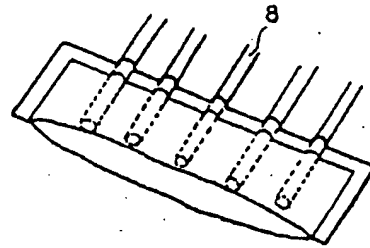
【図10】



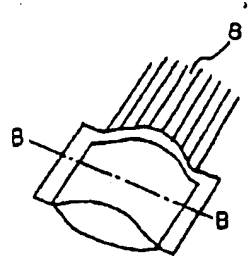
【図6】



【図7】



【図9】



【図11】

